

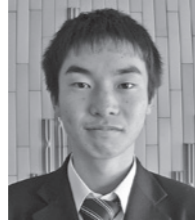
# Funehiki High School News vol.88

## ◆ 進路近況報告第 1 弾

11月10日(月)現在、本校3年生の就職内定率は87.4%に達しました。進学は今が推薦入試の真最中です。今回は「進路状況報告第一弾」として、フガク工機株式会社 東北工場に内定した鈴木健太さんと郡山健康科学専門学校の理学療法科に合格した佐藤千奈さんの声を紹介します。

Q、フガク工機株式会社に就職したいと思ったきっかけは？

A、フガク工機株式会社の工場の近くを通る時があるのですが、とても大きい工場だったので何を作っているのか興味があったからです。



鈴木 健太 さん

Q、就職試験に向けてどのような勉強をしましたか？

A、面接と学科があったのですが、特に面接を中心に準備しました。一回一回の面接練習を本番の時の緊張感を持ちながら行うことで、実際の面接で自分の思いをたくさん伝えることができました。

Q、将来の抱負を聞かせて下さい。

A、スキルアップできる社会人になりたいです。そのために、日々努力することを心がけ、自分の役割に責任を持ちながら社会に貢献していきたいです。

Q、理学療法士になりたいと思ったきっかけは？

A、中学生の時からボランティア活動に参加していた経験と、自分自身が剣道でけがが絶えなかった経験から、理学療法士になりたいと考えるようになりました。



佐藤 千奈 さん

Q、進学に向けてどのような勉強をしましたか？

A、主に数学や理系の勉強に励み、また進学後、特に必要とされている英語に力を入れて勉強してきました。

Q、将来の夢を聞かせて下さい。

A、田村市民として地元で貢献できる理学療法士になることです。

## ◆ 体育祭が行われました



10月30日と31日に校内の体育祭が行われました。男子はバレーボールとバドミントン、サッカー、女子はバレーボールとバドミントン、ソフトテニスの競技を行い、2日目には男女混合で長縄と100m×8人のリレーを行いました。クラス一丸となって秋晴れの空の下、スポーツに励んでいる生徒たちの姿はとても爽やかでした。校長先生や教頭先生もジャージになって競技に参加し、船高みんなでスポーツの秋を満喫しました。



## ◆ 芸術鑑賞教室が行われました



11月7日(金)、本校体育館で芸術鑑賞教室が開催されました。マジックショーでは3年生の女子生徒が即席でステージに上がり、マジックのお手伝いをしました。次に雷門小助六さんの落語があり、続いて林家二楽さんによる紙切りが披露され、大いに盛り上がりました。リクエストされたキャラクターなど切り取った紙は、何人かの生徒に配られ、喜んでいる姿が見られました。最後に春風亭柳橋さんによる落語を聞き、大笑いのうちに幕を閉じました。



海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	18

## アメリカのクリスマス



Adam Hidey  
アダム・ハイディさん  
(アメリカ合衆国  
メリーランド州出身)

「多くのアメリカ人がクリスマスにフライドチキンを食べるわけではありません」と言ったら信じられるでしょうか。

アメリカ人は家庭のしきたりでいろいろな物を食べます。子どもの時、私の家族はクリスマスにたくさんのさまざまな物を食べました。たいていはハムやコーン、さやいんげんのキャセロール、さつまいも、マッシュポテト、ロールパンやいろいろなパンなどを食べました。デザートにはアップルパイやピーカンパイなどを食べました。ある家庭では七面鳥や牛肉、ガチョウなどハム以外の肉を食べたりします。私は日本に来た時、日本の人たちがクリスマスにケンタッキーフライドチキンを食べるので、とても驚きました。正直に言うと、日本のケンタッキーはアメリカよりもおいしいです。もし私が日本で育ったならば、私もクリスマスにケンタッキーフライドチキンを食べていたかもしれません。



しかしクリスマスは食べ物だけではありません。イエス・キリストの誕生日であり、自分の事だけを考えるのではなく、贈り物をしたり、他の人のことを考えたりして、友人や家族など大好きな人たち・愛する人たちと共に過ごす日でもあります。クリスマスの朝、私は興奮のあまり兄弟と一緒に早起きをして、階段を駆け降り、家族一緒に朝食を食べてから、クリスマスツリーのそばに座ってお互いに贈り物を渡し合いました。私の家庭では両親が最初に贈り物を開き、それから兄、そして私が開くという、年長者から年齢の順に贈り物を開きました。私はそれがうまくいっていると思っていましたが、弟はもちろん贈り物を開くのを待つことが好きではありませんでした。

私は昨年初めて家族でクリスマスをお祝いするという、わが家のしきたりを守ることができませんでした。幸運にも、台湾に住んでいる兄夫婦と一緒に過ごすことができました。私の義姉の家族は台湾人で、クリスマスに私を招いてくれました。クリスマスの過ごし方は私たちとは全く違っていました。親切な行き届いたもてなしをしてくれました。この経験は、しきたりは良いものだけでも変化も良いことを私に気付かせてくれました。時にはいろいろな混ぜ合わせて、異なる体験も良いことだと思います。

とりわけ、このクリスマスの経験は、神様が私の人生に巡り合わせてくださった人々に感謝する機会となりました。家族への感謝は言うまでもありませんが、私には他にも感謝するたくさんの家族があることに気付かされました。私には日本で親しくなったたくさんの人たちがいます。私に対するその人たちの思いやりのある言葉や寛容にいつも感謝しています。私が苦しんだり悩んだりする時に私を助け、最善を尽くせるように励ましてくださいました。私はアメリカにいる家族を愛していますが、日本の家族も愛しています。

私は今年のクリスマス、両方の家族のことを思いながら過ごそうと考えています。